

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「Amazonが期間限定リアル店舗、渋谷に出店」
  - 2) 「駅ビルで通販の試着できます ヤマト、返品減らす」
  - 3) 「アイリスオーヤマ、内装資材事業に参入 五輪にらむ」
- 

1) 「Amazonが期間限定リアル店舗、渋谷に出店」

アマゾンジャパンは、8日から11日までの大型セール「サイバーマンデーセール」に合わせ、期間限定のリアル店舗を東京・渋谷に開いた。

丸井グループが運営する商業施設「渋谷マルイ」と「渋谷モディ」に出店した。数量限定や24時間ごとに変わるタイムセール商品の中から人気商品を展示している。実際に商品に触れ、値札代わりにQRコードからその場で購入サイトにアクセスできる。当日や翌日の指定した時間に商品を届ける「プライムナウ」を使って、商品を店頭で受け取ることもできる。

ネットスーパー「アマゾンフレッシュ」で扱っている食料品が食べられるレストランや、動画配信など有料会員向けのサービスが体験でき、新たな顧客開拓につなげる考えだ。担当者は「物を売るだけの店舗では、今後成長はない。ネット通販と共存、共栄できる店舗づくりを進めていく」と話す。サイバーマンデーセールは今年で6回目。昨年の注文数は前年比7倍で、年々増加しているという。

ネットと共存している店舗が増えている今、スマホを片手に買い物する光景が将来当たり前となってきそうだ。アマゾンと言えば、何でも揃っていて頼めばすぐ届く、といった印象がある。それが実店舗となるとどのように特徴を発揮できるのか楽しみでもある。今回はPR的なポップアップショップだが今後どうなるか動きに注目したい。

---

2) 「駅ビルで通販の試着できます ヤマト、返品減らす」

ヤマトHDは2018年から、インターネット通販で選んだ衣料雑貨を駅ビルで試着できるサービスを始める。駅ビルに試着室を設け、自社の配送網で商品を届ける。衣料雑貨のネット通販は、購入前に試着できないという不便さがある。仕事帰りなどに手軽に試着できるようにすることで、衣料雑貨のネット通販市場の拡大を後押しする。

18年1月からJR大森駅（東京・大田）に直結する駅ビル「アトレ」で実証実験を始める。ヤマトが売り場の一部を借りて、無料の試着室を設ける。アパレル大手の三陽商会や靴専門店のかねまつ（東京・中央）など数社が参加する。18年度中にアパレルなど約40社に増やし、複数の駅ビルで展開する考えだ。

各社の通販サイトで購入したい商品の配達先として、駅ビルを指定できるようにする。仕事帰りなどに駅ビルに立ち寄って試着し、気に入ったものだけを購入できる。消費者にとって自宅で何度も商品を受け取ったり、返品したりする手間を省ける利点がある。

アパレル側にとって、ヤマトの試着室を疑似店舗として使える利点がある。ヤマトは商品の運賃収入に加えて、売上げの一部を手数料として受け取ることも検討する。実証実験では購入時に決済し、試着しても購入しない場合は返金される。実用化の際は、試着室で気に入ったら、接客する従業員に代金を支払う方法を検討する。

ネット通販は届け先が不在時の再配達で配送員の負担を重くしている。さらに衣料雑貨のネット通販ではサイズが合わないなどの理由で、企業によっては3割の返品が発生している。ヤマトの新サービスは倉庫から駅ビルへの輸送で済むため、宅配便の2割で発生する再配達を減らせる。

ネット通販のデメリットを一掃するような新しいサービスだ。消費者と宅配業者がWin-Winになる点、施設側にとっても足を運んでもらえるきっかけとなることを考えるとサービス拡大が見込めるのではないだろうか。

---

### 3) 「アイリスオーヤマ、内装資材事業に参入 五輪にらむ」

アイリスオーヤマ（仙台市）は2020年の東京五輪・パラリンピックに向けて首都圏で商業施設などの新設や改装が増えるとみて、18年1月に内装資材事業に参入する。中国・大連の工場に20億円を投じて生産設備を導入し、洗面台や手すり、消火器ボックスなど約20種類を日本のゼネコンへ納入する。初年度売上高は30億円を目指す。

同社はLED照明をゼネコンに直接納入しており、他の資材も一緒に調達したいとの要請が顧客から来ていた。大連の工場は鉄板などの素材を精密に加工する技術を持つ。様々な形状やサイズの内装資材を生産し、顧客の要望に応じて納入する。アイリスは家電やプラスチック収納容器など消費者向け製品が主力事業。内装資材で法人事業にも本格的に取り組む。

元々照明が主となっており、一度に色々な資材を調達できるとなるとゼネコンにとってはありがたいことだろう。東京五輪に向けた動きは今後様々なところで起こってきそうだが、各社どのような取り組みがあるのか楽しみだ。